

九州地域における次世代ヘルスケア戦略に関する研究会 第4回 議事要旨

(1)ヘルステック・ベンチャーの台頭

医療従事者による創業がこのところ多くなっている。背景には医療分野における社会的な課題を解決しようと志す若手医師。一方、多くのベンチャーが本当に「死の谷」をわたれるのか課題もある。成長には技術シーズよりリスクマネーの供給が重要。ICOによる調達の可能性等もある。

ヘルステック・ベンチャーの起業傾向の把握とその支援の必要性を認識。一方、事業環境の厳しさも。現状、①ヘルステック・ベンチャー設立のための官民を挙げたサポートの充実が求められており、地域レベルで支援を行う取り組みもスタートしつつある。②テクノロジー主導型の製品はしばしば、日本の医療マーケットの事情や時間的な制約等から、困難に直面することも多い。③医師ならではのニーズの探索・発見がある。見つかった課題に対してテクノロジーを活用し実装していく過程では、患者との対話や異業種とのネットワーク構築にも留意が必要。

(2)イノベーション創出の視点

ヘルスケア分野はマネタイズに課題が残る。ビジネスモデルが曖昧な取り組みも多い。関係する人のマインドセットが大切。

イノベーションに結びつけるには、域内企業にこだわるのではなくむしろ、異業種でかつ世界と戦っている企業と意図的に掛け合わせていくようなアプローチも必要。

(3)戦略プロジェクトの創出の視点

行政の役割は大きい。どのような目的や継続性をもってプロジェクトを推進するのかを念頭に入れることが重要。自治体が1企業と何かを一緒に取り組むという事はタブー視されていたが、昨今、ヘルスケア分野では、そこに手を突っ込んででも、町全体を元気にするという取組が進みつつある。重要なのは、何かサービスをしたら、その効果がしっかりと出ているのかという事を検証する仕組みがきちんと構築されていること。

九州全体がリビングラボで、インキュベートアイランドとなり、九州が良い事例になるという様な、仕組みができ、その仕組みを作っていく過程で、個別の事業も応援しようという形ができればよい。